



士会だより



NO MAN IS
ABOVE A
WOMAN.
NO WOMAN IS
ABOVE A MAN.



「男女共同参画推進委員会の今後の活動」

巻頭言

p. 2

各部だより
保健福祉部

p. 3

各部だより
スポーツ活動支援部

p. 4-5

各部だより
災害対策部

p. 6-10

男女共同推進
委員会の活動

p. 11-14

会長行動録

p. 15

理学療法士
数珠繋ぎ

p. 16



会員数の今昔

一般社団法人兵庫県理学療法士会
理事 中川 ふみよ

今年1月18日の某新聞1面のトップ記事が「中国人口減」でした。「阪神・淡路大震災から28年」各地で追悼行事が行われたという記事を抑えてのトップでしたので、中国が人口減になったという事が日本でそんなに重要なことなのかと思いました。減少したのは85万人。中国の総人口は14億1175万人だそうで、そんなに大したことじゃないかと思うのですが、1面以外にも多くの記事が掲載されていました。人口減は経済成長が止まったりするので悪いイメージがあり、中国では情報統制もしているとかしないとか。

人口が減ること以上に問題なのは年齢の分布だそうです。経済成長とともに形が変わっていくのが一般的で、始めは富士山型。続いてピラミッド型、釣り鐘型、つぼ型。ピラミッド型は人口が増え、経済成長に有利。つぼ型は人口が減少していく形で日本や中国がこれにあたります。

例えば、昔、「理学療法士の人口ピラミッドはピラミッド型どころか、キノコをひっくり返したような形だ。」と、どなたかが言っていたのを覚えています。年が進むにつれてどんどん理学療法士は増えてきました。そして、近年変わってきたことは定年になる人が出てきたことです。ついに理学療法士もキノコの軸がなくなって、定年になる人が増えてきたんだなあと感慨深いものがあります。もう一つ変わってきたことは理学療法士以外に転職する人が増えてきたことです。理学療法士の働く環境が変わったから転職するというような事情もあるかもしれませんが、よりやりたい職業に進める、より理学療法士として働きたいと思う人が残る、と考えればいいことなのかもしれません。が、やはり少し寂しいと思うのは私だけでしょうか。

会員数の増加が鈍化しているということが最近話題になります。すると、組織として成長が止まっていくのか。しかし、よく考えてみると世界の国の人口と同じようにいつまでも増加し続けることはあり得ない。SDGsではない。人口が減るメリットを唱えている人もいます。では、「人数に頼らず組織を発展させるにはどうしたらいいのだろう。」と思いますが、突き詰めて考えるのは複雑で難しそうです。なので、とりあえず目の前にある問題に取り組んでいきたいと思います。

組織で大事なのはやはり人財。県士会では会員の皆様との関係を深めようと、代議員制度があり、青年部、管理者ネットワークなどの取り組みをしています。もちろん、この県士会だよりもその一つですし、ホームページ、SNSもあります。少しずつ活動を始めました男女共同参画推進事業もできました。その他、学会や研修会、公共事業も含めて一つ一つの事業

組織の中の何らかのピースになっています。

理学療法士として少しでも働いている人、今は働いていなくても今後また働きたいと思っている人には会員でいてほしい。会を一緒に育てていってほしいと願います。

各部だより

保健福祉部

コミュニケーションスキルアップ研修に参加して

12月18日(日)、保健福祉部主催の「コミュニケーションスキルアップ研修」に参加しました。今年度は基本編として「報告・連絡・相談とプレゼンテーション」について、株式会社はんなりとの松村 俊和先生に講義をしていただきました。

日頃からコミュニケーションに苦手意識を持っていたため、初めは緊張してしまいましたが、アイスブレイクやゲームの要素が入ったグループワークを通して徐々に緊張は解れ、楽しみながら学ぶことができました。その中でも、限られた時間内でリーダーが言葉だけで一つの図形や絵を伝え、それをチームで相談し完成させる「報連相ワーク」が印象的でした。自分しか知らないことを的確に言語化すること、言葉だけの説明から具体的な形を作り出すこと、どちらの体験もゲームとはいえ、日々の自分の会話はどうかと考えさせられるものでした。

受講後は、早速、日常業務で自分が伝えたいことが「報告なのか、連絡なのか、相談なのか」を整理すること、結論を話してから理由などの説明をすることを心掛けるようになりました。また、同じ言葉でも相手によって捉え方が違うこともあると気づけたので、相手に正しく伝わっているのかを確認したり、伝え直しをしたりすることも意識するようになりました。

私たち医療専門職は専門性を高める研修はたくさんあるものの、このようなコミュニケーションの基礎を学べるような機会は少ないので、今後、同僚や後輩にもお勧めしたいと思いました。みなさんも患者や家族だけでなく職場の同僚や他職種と円滑な関係を作れるように学んでみてはいかがでしょうか。

長濱 佑亮(適寿リハビリテーション病院)



病院を母体とする医療の総合教育校

医療系 8 学科

- 診療放射線科
- 臨床工学科
- 視能訓練士科
- 理学療法士科
- 作業療法士科
- 言語聴覚士科
- 歯科衛生士科
- 臨床工学専攻科

Since 1973 医療法人社団 慈恵会
KCC 神戸総合医療専門学校
〒654-0142 神戸市灘区友が丘7丁目1番21
お問い合わせはコチラ TEL 078-795-8000(代表) 078-795-8100(入試・広報係) HP <https://www.kobecc.ac.jp>



女性だから、できるケアがある。
女子大学で、女性のための理学療法を学び、リーダーシップがとれる理学療法士へ。

看護リハビリテーション学部
理学療法学科

甲南女子大学
KANSAI WOMEN'S UNIVERSITY
〒658-0001 神戸市東灘区森北町 6-2-23

理学療法学科公式サイト
理学療法学科公式 Instagram

各部だより

スポーツ活動支援部

勉強会報告 神戸西支部×スポーツ活動支援部

2023年1月15日神戸西支部とのコラボ勉強会を開催しました。

講師は兵庫県立リハビリテーション中央病院の三星 健吾先生より「肩関節のスポーツ障害」について講義していただきました。内容は解剖学、肩関節に多い傷害、リハビリテーションの紹介、テーピング方法、など基本的な内容でした。

現場で一緒に悩みましょう



【勉強会参加者の感想】

今回「肩関節のスポーツ傷害について」の講義に参加し、各種スポーツにおける肩関節の外傷や障害、リハビリテーションの進め方やエクササイズについて学ぶことができました。肩関節の障害や外傷を学ぶ中で、各競技の競技特性やその競技における肩関節の負担を学ぶことは、障害の原因や今後のリハビリテーションを進めていく中で大変重要だと思いました。また障害や外傷を生じた場合、肩関節のみにアプローチするのではなく、体幹や下肢といった全身運動の評価を行っていく必要性を感じました。最後は症例を通してのグループディスカッションがあり、他の先生方の考え方をすることで、自分の考えを深めることができました。コロナ禍で行われていなかったスポーツ現場のサポート活動が少しずつ再開するとのことで、今回得た知識をもとに積極的に参加していきたいと思いました。

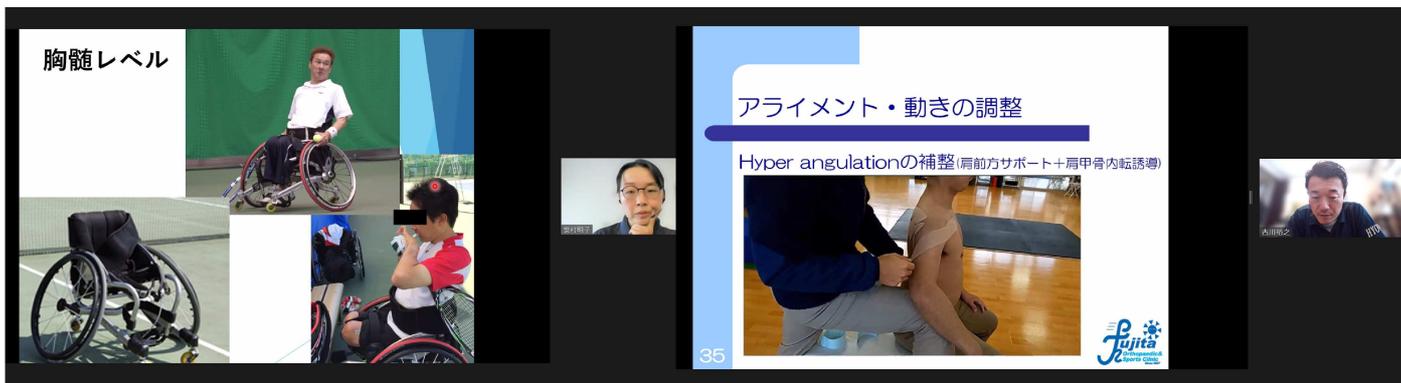
只津 美紀(兵庫県立リハビリテーション中央病院)

今回の講習会では肩関節について、学ぶ機会を頂きました。私は陸上競技を中心に取り組み、下肢に着目することが殆どでした。そのため、上肢について今一度基礎を見直し出来たのは非常に有意義であったと思います。個人的に重要と感じたのは広背筋についてです。広背筋は広い範囲で付着しており、肩関節の運動だけではなく体幹・下肢との運動に関与し、さらには呼吸にも働く筋肉でもあります。サッカー等の短距離でのショートダッシュやバレー、バスケの様な素早い反応が求められる競技では、体幹・下肢の急速な運動が必要となります。その際に広背筋の柔軟性や体幹の支持性が乏しいと腰部や下肢のインピンジメント以外にも肩関節にも障害が生じるのではないかと思います。講義の中でもありました「肩関節が被害者」「投球障害は全身運動」という言葉通り、一箇所ではなく全身も含めて繋がりを踏まえ評価・アプローチすることが大事と改めて実感しました。

廣部 祥平(名谷病院)

活動報告 車椅子テニス勉強会

2023年2月5日 車いすテニス大会「KOBE OPEN2023」に向けてのWeb勉強会を開催しました。講師は藤田整形外科スポーツクリニックの古川 裕之先生と介護老人保健施設いきいきの郷の安村 明子先生。内容は車いすテニスの競技特性、車いすテニスに多い傷害、テーピング方法、物理療法など車いすテニスサポートに参加したことがない方にも分かりやすい基本的な内容となっていました。



【勉強会参加者の感想】

私は今回、車椅子テニスの勉強会に参加しました。競技の特徴や今までどのように発展してきたのか教えていただきました。障害の程度と車椅子の関係について知らなかったことを知れてよかったです。また、選手に生じることが多い傷害について解剖的な観点も踏まえて学ぶことができました。動画でも選手に行うテーピング方法や注意する点について教えていただき、とても参考になりました。機会があれば、車椅子テニスの大会のサポートにも参加したいと思います。

上谷 華惟星(大西メディカルクリニック)

スポーツ障害の勉強会や現場活動に関心のある方は、QRコードにアクセスしてサポートスタッフへ登録してください。案内メールを送信いたします。



「選手は皆さんのサポートを待っています」

各部だより

災害対策部

第13回JIMTEF災害医療研修アドバンスコースに参加して

2023年2月4～5日の2日間に神戸市中央区にあるJICA関西で第13回JIMTEF災害医療研修アドバンスコースが開催され、兵庫県理学療法士会員として参加させていただきました。

13:00 ~ 13:10 10分	開会挨拶 国際医療技術財団(JIMTEF)代表理事 国立病院機構災害医療センター名誉院長 林 茂樹
2月 13:10 ~ 14:20 70分	演習1 「発災から急性期の対応①」 ※講師：DMAT事務局 市原 正行 小塚 浩
4日 14:20 ~ 14:30 10分	休憩
14:30 ~ 15:50 80分	演習1 「発災から急性期の対応②」 ※講師：DMAT事務局 市原 正行
15:50 ~ 16:00 10分	休憩
16:00 ~ 17:40 100分	演習2 「避難所運営ゲーム (HUG)」 ※講師：JIMTEF災害医療委員会 梶村 政司
17:40 ~ 18:00 20分	本日のまとめ・質疑応答
9:00 ~ 10:30 90分	演習3 「避難所・地域アセスメント」 ※講師：DMAT事務局 小早川 義貴 国立病院機構静岡医療センター 浅野 直也
2月 10:30 ~ 10:40 10分	休憩
10:40 ~ 11:10 30分	演習4 「災害食の実際」デモンストレーション ※講師：JIMTEF災害医療委員会 下浦 佳之
5日 11:10 ~ 11:30 20分	演習5 「本部運営実習 説明」
11:30 ~ 12:30 60分	演習4 「災害食の実際」試食
12:30 ~ 14:30 120分	演習5 「本部運営実習」 ※ファシリテーター：JIMTEF災害医療委員会
14:30 ~ 14:50 20分	本日のまとめ・質疑応答
14:50 ~ 15:00 10分	修了式 国際医療技術財団(JIMTEF) 代表理事 林 茂樹

JIMTEF災害医療研修には、

- ①講義形式は各演習の数分の説明程度で、その他全て演習形式をとること
- ②災害に関わる様々な職種の医療従事者が集まること
- ③発災時に立ち上がる災害対策本部や活動本部、避難所の運営をゲーム形式で体験できるこれらの3つの大きな特徴があります。

医療で社会をつなぐ
「医療社会人」を目指す



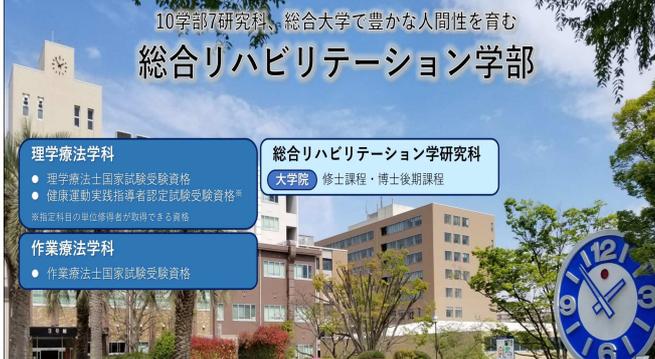
学校法人 平成医療学園
宝塚医療大学
TUMH TAKARAZUKA UNIVERSITY OF MEDICAL AND HEALTH CARE

保健医療学部
理学療法学科 ■ 柔道整復学科 ■ 鍼灸学科

0120-00-1239
〒666-0162
兵庫県宝塚市花屋敷緑ヶ丘1

宝塚医療大 検索
http://www.tumh.ac.jp/

10学部7研究科、総合大学で豊かな人間性を育む
総合リハビリテーション学部

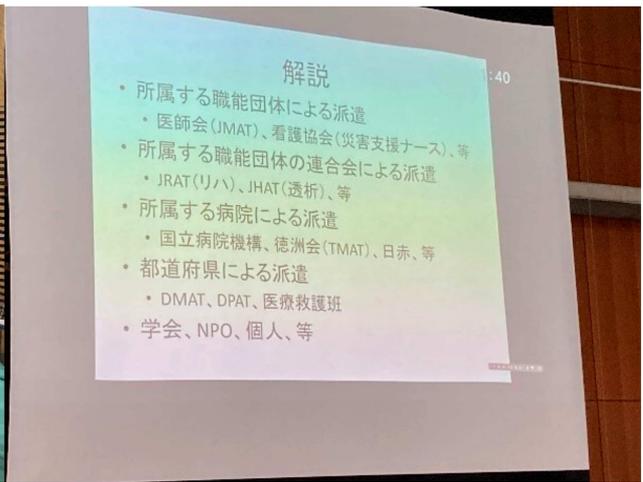


理学療法学科
● 理学療法士国家試験受験資格
● 健康運動実践指導者認定試験受験資格
※指定科目の単位修得者が取得できる資格

総合リハビリテーション学研究科
大学院 修士課程・博士後期課程

作業療法学科
● 作業療法士国家試験受験資格

神戸学院大学
〒651-2180 神戸市西区伊川谷町有瀬518
有瀬キャンパス TEL(078)974-1551(代表)



私の所属したチームは柔道整復師、鍼灸師、作業療法士、公認心理士、臨床心理士、言語聴覚士、理学療法士と様々な職種が集まりました。各本部運営や避難所運営をゲーム形式で実施したのですが、リーダーとなる方の職種によって避難所の運営方針に特徴が出ました。例えばリハ職であればADL面、心理士であれば精神衛生面、柔整や鍼士は個別介入を重視など。チーム内で与えられた役割を果たしながら、理学療法士としての意見を出しました。また、チーム運営がスムーズに進行できるように、リーダーをサポートしながら各々の役割をしながら固い頭をフル回転させて取り組みました。各セッションは約1~2時間あるのですが、あっという間に時間が過ぎ、両日共に非常に充実した時間を過ごすことができました。

今回の研修会を通じて改めてコミュニケーションと備えの重要性を感じました。他者の意見を傾聴し理解すること。自分の考えや思いを誤解なく正確かつ丁寧に伝えること。基本的なことなのかもしれませんが、身体・精神的な疲労が溜まり、時間に追われる状態になると冷静な判断と温和な対応が難しくなります。想定できる範囲で事前準備をしていれば、有事の際に心身共に余裕を持って動くことが出来ますし、その余裕が良好なコミュニケーションに繋がることを学びました。

研修会に参加させていただきありがとうございました。今後もこのような機会があればぜひ参加させていただきたいと思えます。

中播磨支部災害対策担当
上下 竜平(県立はりま姫路総合医療センター)

~精鋭の教員陣による人間教育~
リハビリテーション学部
理学療法学科

神戸国際大学
リハビリテーション学部/経済学部
〒658-0032 神戸市東灘区向洋町中9丁目1番6
TEL: 078-845-3111(代表) FAX: 078-845-3200

リハビリ訪問看護ステーション部 アスリートサポート部 ソーシャルメディア広報部

Steps
想いをカタチに

予防医療部 ウイメンズヘルス部 ICTサポート部

兵庫事務所 TEL 078-599-7990 FAX 078-330-3754
〒652-0033
神戸市兵庫区西上橋通 1-1-23 ヴィラ神戸 II 101

神戸西事務所
〒655-0013
神戸市垂水区福田 2-4-4 サン・リベラル 203

第13回JIMTEF災害医療研修アドバンスコースに参加して

2023年2月4～5日、神戸のJICAで開催された研修に参加させて頂きました。初日の内容は、発災からの急性期対応についての講義と、避難所運営ゲーム(HUG)の体験で、2日目には避難所アセスメント・本部運営実習・災害食の実際などを学ばせていただきました。

コロナ禍で久しぶりの対面研修となり、初対面の様々な職種の方たちとのグループワークは緊張しましたが、意見交換を通して色々な考え方を知ることができ、非常に有意義な研修でした。

災害時は普段から知っている人とチーム形成をすることが難しく、個人の意見だけではなく様々な意見を聞きながら、絶対的な正解が無い中で、より良い選択を短時間でしないといけない事が多くあり、なかなか難しいことだと思いました。だからこそ支援者は研修を通して共通の評価ツールや災害対応の考え方を学ぶことが大切だと思いました。

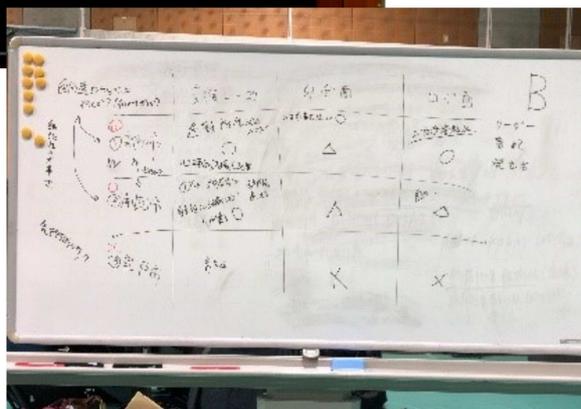
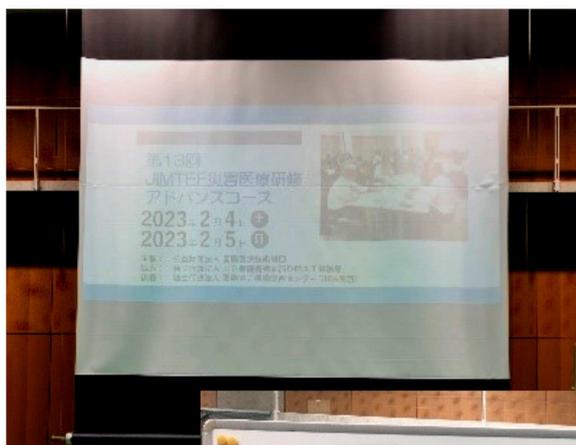
災害は、いつ起こるかわからず、日常的に意識するのが難しいですが、起こる前に準備していないと行動ができないことが多く、普段から備えの意識が必要だと再度痛感させられました。今回は、災害医療として支援する側の研修でしたが、裏を返せば、被災者になった時にどのように支援を受けるかの受援に関しても意識が必要と思いました。

まずは、災害について、個人や家族や職場などで考え、会話しながら防災や減災または備蓄品の用意から始めようと思います。さらに何事においてもですが、定期的に見直す必要性があり、今後も学びを続けていこうと考えています。

最後に今回の研修参加に関してご協力いただいた、日本理学療法士協会・兵庫県理学療法士会や災害対策部には深く感謝申し上げます。

阪神南尼崎支部 災害対策担当

酒井 直人(阪神医療生活協同組合 訪問看護ステーション ふれあい)



令和4年度 JRAT 兵庫JRAT×北播磨圏域リハビリテーション支援センター ～共催の研修会を受講して～

2月12日(日)に小野市うるおい交流館エクラ・市民交流館にて現地とZOOM参加のハイブリッドで開催されました。午前の部では、西宮協立リハビリテーション病院の勝谷医師から「災害リハビリテーション概論」を、次に神戸赤十字病院の高本PTから災害医療の原則であるCSCATTTと本部の経時記録法であるクロノロジーについて講義をいただきました。

勝谷先生の講義では、JMAT兵庫(県医師会災害支援チーム)の中に災害リハビリテーション支援チームとして兵庫JRATがあることを知りました。また、兵庫JRATメンバーは災害時リハビリテーションの支援に関する知識・経験を活かし、リハビリテーション職で構成される支援チームをマネジメントして被災地の支援を行うそうです。現地では指示が来るわけではなく自ら問題点を探すことの連続であると学びました。

高本先生の話では災害医療の原則のCSCATTT(表)を詳しく教えて頂き、災害医療では医療資源に限りがあり、指揮コントロールの中で支援をどのように分配していく必要があるかなども知ることができました。また最近の知見として、BHELP(Basic Health Emergency Life Support for Public: 地域保健・福祉における災害対応標準化トレーニングコース)で提唱されている要配慮者の救護の視点CSCAHHH(表)や、熊本機能病院の三宮先生が提唱している災害リハ対応の原則CSCARIC(表)のことも紹介されていました。演習ではクロノロジーを体験し、災害時はめまぐるしい状況変化の中で情報量も多く、いかに迅速かつ正確に記載し伝達(繋げる)ことの重要性を学びました。今後はもっと多くの人達にも知って頂き、災害リハビリテーションに興味を持って頂きたいと感じました。

午後からは避難所運営ゲームHUGを行いました。これは避難所を運営するスタッフの立場になってグループで作業するカード式ゲームです。避難所にやってくる人達の条件が多様で、次々と来る避難者の対応や様々な出来事の影響により、せっかく避難して落ち着いた避難者を移動させざるをえないこともありました。その為にも管理者の統制や記録係の記載方法や内容、また各係との連携が非常に重要になってくるのがゲーム体験を通して気づくことができました。避難スペースの区画分けは子供をまとめて遊べるようにし、同じ地区の人達も近くにすることで自助や互助も意識しながらコミュニティの確保をすることは勉強になりました。今後、南海トラフは30年以内に70～80%の割合で起こると言われており、今後も自分でできることを行い、有事の際は少しでも災害関連死が減ることに尽力したいと思います。

災害対策部 東 恭弘(尼崎だいもつ病院)

災害医療対応の原則 CSCATTT

Medical Management(管理)

C: Command & Control 指揮統制/連絡調整
S: Safety 安全
C: Communication 情報伝達
A: Assessment 評価

Medical Support(支援)

T: TRIAGE トリアージ
T: TREATMENT 治療
T: TRANSPORT 搬送

要配慮者の救護対応の原則 CSCAHHH

C: Command & Control 指揮統制/調整
S: Safety 安全
C: Communication 情報伝達
A: Assessment 評価

Medical Management (管理)

H: Health care Triage トリアージ
H: Helping hand 手を差し伸べる
H: Hand over つなぐ

Support (支援)

日本災害医学会 地域保健・福祉の災害対応標準化トレーニングコースBHELP資料より

災害リハ対応の原則 CSCARIC

C: Command & Control 指揮統制/調整
S: Safety 安全
C: Communication 情報伝達
A: Assessment 評価

Medical Management (管理)

R: Reha Triage リハトリアージ
I: International Classification of Functioning, Disability and Health 国際生活機能分類に合わせた対応
C: Community Based Rehabilitation 地域リハビリテーション活動への移行

Support (支援)

第3回 兵庫県理学療法士会災害対策研修会 三宮京彦 先生講義資料より

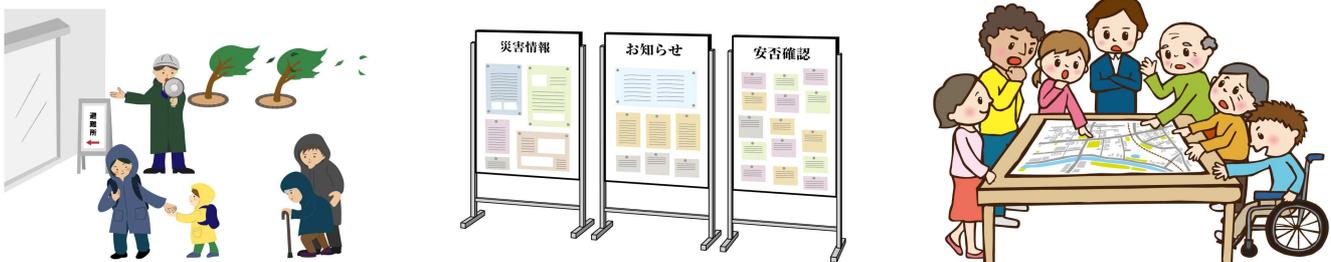
令和4年度 JRAT 兵庫JRAT×北播磨圏域リハビリテーション支援センター ～共催の研修会を受講して～

令和5年2月12日(日)、小野市うるおい交流館エクラにて災害リハビリ研修会が開催されました。この研修は兵庫JRAT(日本災害リハビリテーション支援協会)、北播磨圏域リハビリテーション支援センターの共催で開催されました。

午前中は座学中心で、災害リハビリテーションの概要や熊本地震での活動について、兵庫JRATの勝谷医師に写真や実体験を交えて分かりやすくご説明頂きました。次いでDMAT(災害派遣医療チーム)隊員でもある高本先生には、災害医療活動において重要な「GSCATTT」の説明やテクノロジー(経時活動記録)の実習も行われました。気になった方は、ぜひとも災害対策部の研修にご参加ください。午後からはグループワークとしてHUG(H:避難所 U:運営 G:ゲーム)を行い、私は事前説明の講師とグループワークのファシリテーターとして活動しました。HUGはメンバー全員が避難所の運営者として役割を振り分けられ、受付に並んだ多くの避難者に避難場所を割り振り、次々発生する様々なイベントへの対応をグループで相談しながら運営していきます。このゲームを通して被災地で活動する人々の大変さについて身をもって経験でき、今後支援する立場に立った時にも、この経験を活かすことが出来ると感じています。さらに、昨今ではCOVID-19の蔓延を契機に避難所での感染対策が重要視されており、避難所の運営についても知識をアップデートしていかなければならないと感じました。

令和5年2月6日にはトルコで大規模な地震が発生し、トルコやシリアにて多くの方が犠牲となり、死者数は東日本大震災を大きく上回る事態となっています。日本においても、南海トラフ大地震の発生確率は今年1月に「20年以内で60%程度」と引き上げられました。そのため、兵庫県理学療法士会災害対策部は、これからもみなさまへの情報提供や発災時における対応について学ぶ機会を提供し続けます。今後ともよろしくお願い致します。

災害対策部 今西 慶行(宝塚市立病院)



POINT 5

リハノメとは
「リハノメ」はPT・OT・STのための、どこでも学べるオンラインセミナーサービスです。臨床に役立つPT・OT・STのために、各分野の専門家が臨床経験や研究成果に基づいた知識・技術をお届けいたします。

1ヶ月見放題プラン
通常料金 3,080円が初回限定で…

980円 (税込) お申込みはごほうび

豪華講師陣が
続々登場!

赤羽根 良和先生
石井 慎一郎先生

法人様向けプランも
ご用意しております

お問い合わせは
こちらまで
お願いします

semnar@gene-llc.jp
Tel.052-325-6611

リハビリテーションを
「かたち」にする会社 **gene**

〒461-0004 愛知県名古屋市中区東1丁目26-12 1KKO新ビル6階

人にやさしい人になる

PHYSICAL THERAPY 理学療法学科
OCCUPATIONAL THERAPY 作業療法学科
SPEECH THERAPY 言語聴覚学科

HRC 関西総合リハビリテーション専門学校

E-mail krc@junshin.or.jp 〒656-2132 兵庫県淡路市志筑新島7番4
http://www.krc-net.jp/ TEL.0799-60-3600 FAX.0799-60-3610

男女共同参画推進委員会の今後の活動

男女共同参画推進委員会は昨年度に発足し、今年度から委員会として本格的な活動を始めました。今年度はこれからの活動の下地としてアンケートと研修会を行いました。アンケートは今年度9月に資料調査部と共同で実施し、県士会活動における「部長、委員長、支部長」「部員、委員、支部運営委員」「会員」と対象を3グループに分け、それぞれ83%、37%、3%の回答を頂きました。色々な立場でどうすれば女性の役員を増やすことが出来るかなどを焦点に質問をしました。研修会は、11月に役員及び代議員対象に行いました。

それらを踏まえて男女共同参画推進として、以下の項目について述べます。

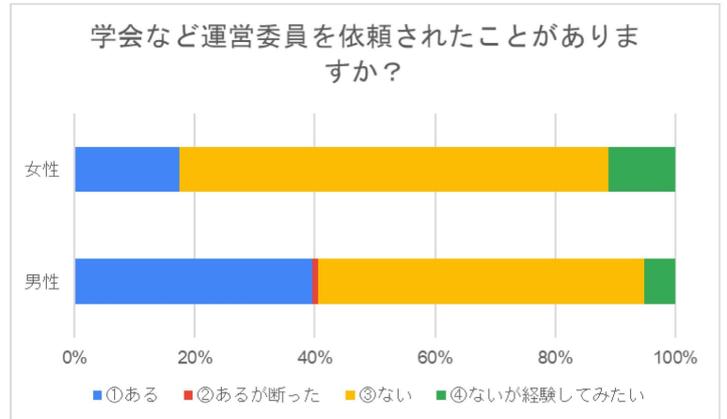
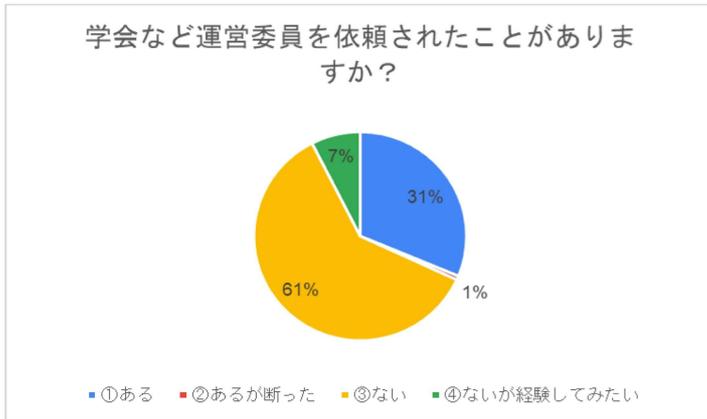
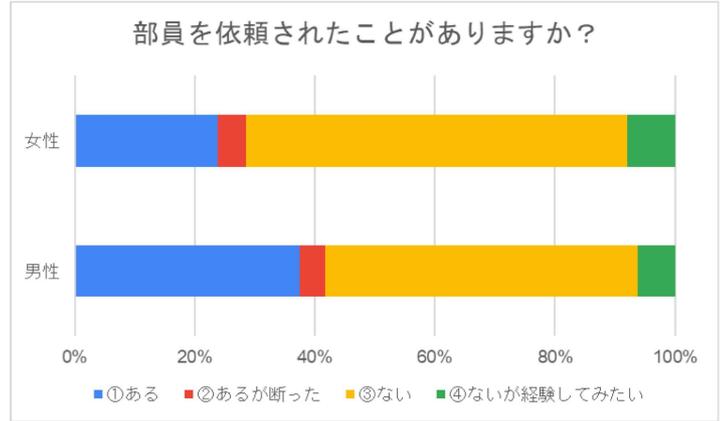
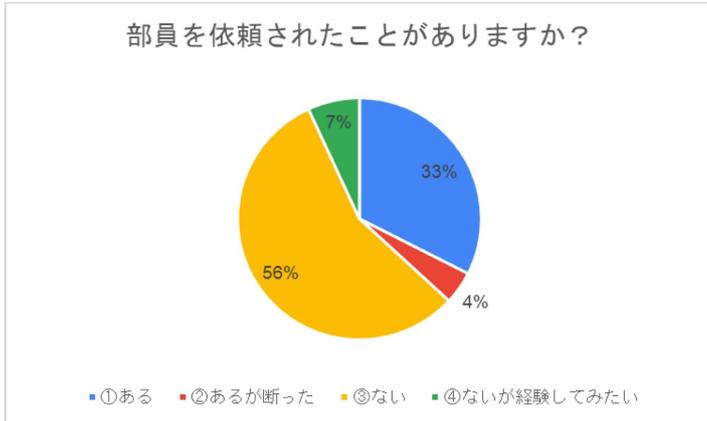
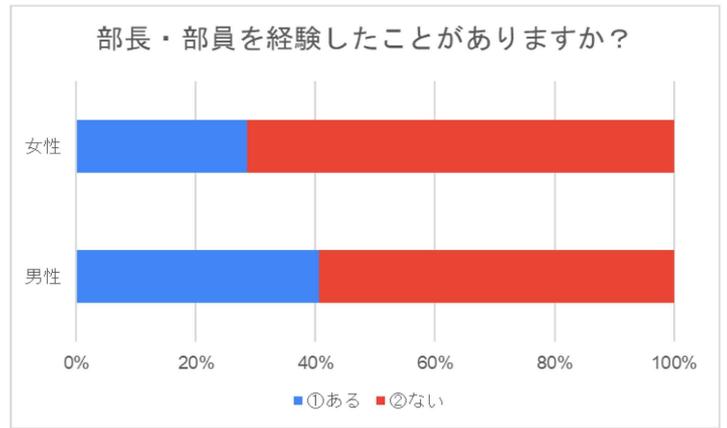
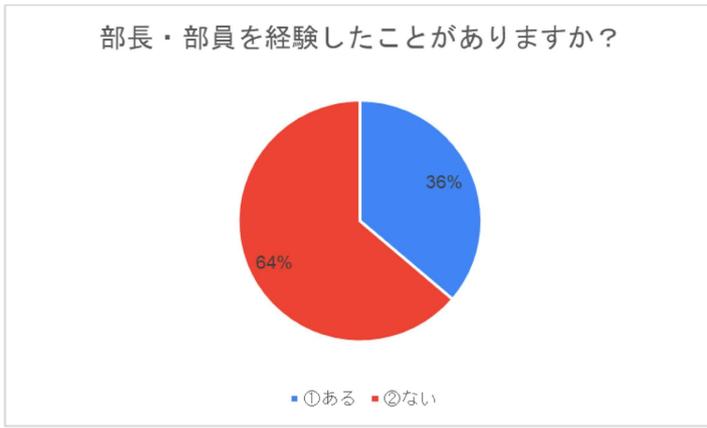
- ①会員の参加を促進する事
- ②会員の参画を促進する事
- ③様々な格差を是正する事(男女差など)
- ④今後の男女共同参画推進委員会の活動について

① 会員の参加を促進する事

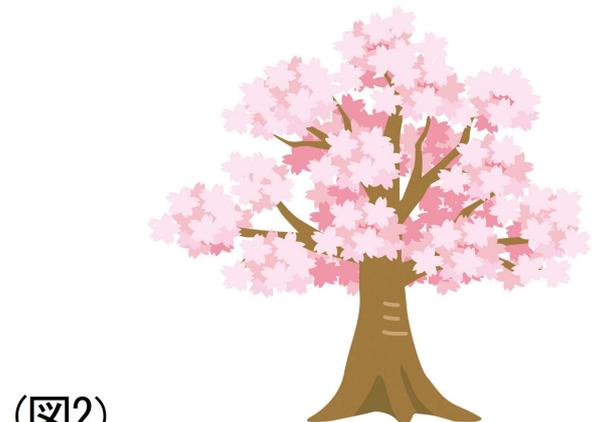
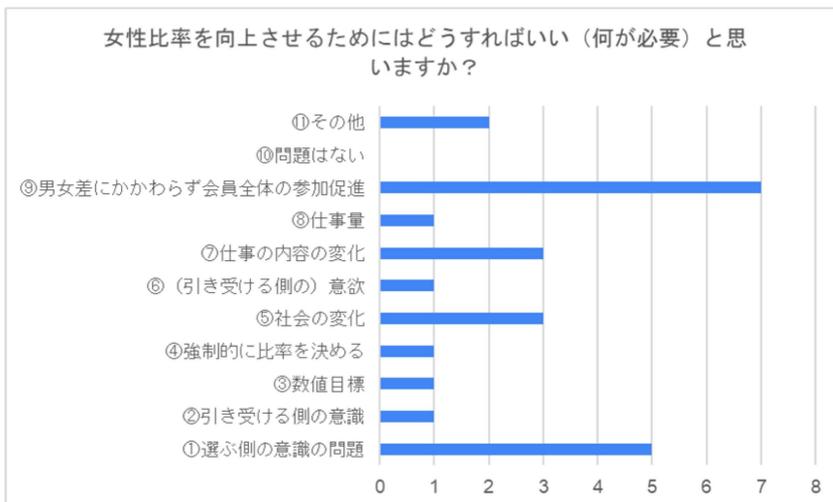
まずは研修会や学会、各部(委員会)が行う事業に参加しやすくなるために、県士会活動を魅力あるものにしようと各部が考えてくれていますので、ここでは今まで見過ごされていた何らかの事情(子育てなど)で参加しにくい人、できない人にスポットを当てたいと思います。これが会員の参加を促進することと、②の参画の促進にもつながると考えます。

② 会員の参画を促進する事

参画というのは計画から加わっていくことを意味するとのこと。参加から一歩進んで自ら(ここが重要!)活動に深く関わってってもらえる人材を促進したいと考えています。ここでは部員などになるということが近いイメージでしょうか。「会員」に対してのアンケートで、「部長・部員を経験したことがありますか?」の問いに、ある36%、ない64%、「部員を依頼されたことがありますか?」にある33%、あるが断った4%、ない56%、ないが経験してみたい7%、「学会など運営委員を依頼されたことがありますか?」にある31%、あるが断った1%、ない61%、ないが経験してみたい8%であり、半数以上の会員が経験または依頼されたことがないとの回答でした(図1-1)。これらを男女別にそれぞれの回答の割合を比較してみると、女性の方が、経験または依頼されたことがないの割合が多かったです(図1-2)。①と同様に様々な人が参画しやすい方法を提案していきたいと考えています。自発的に部員などの役員を行いたい人を募る方法も考えていきます。「部長、委員長、支部長」に対してのアンケートで、「女性比率を向上させるためにどうすればいい(何が必要)と思いますか?」の問いに対し、男女差にかかわらず会員全体の参加促進が必要との回答が最も多く(図2)、まずは性別にかかわらず、会員全体の参加及び参画が必要であり、後述します女性の構成率向上にも好影響を与えると考えています。



(図1-1、図1-2)

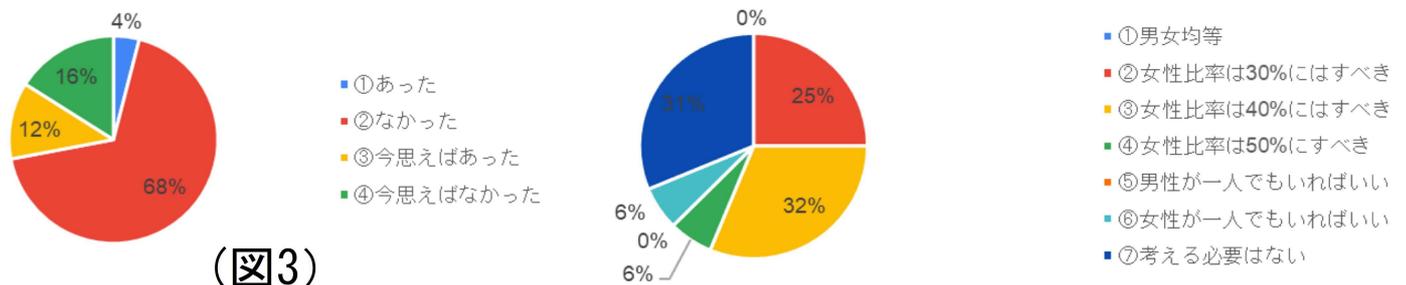


(図2)

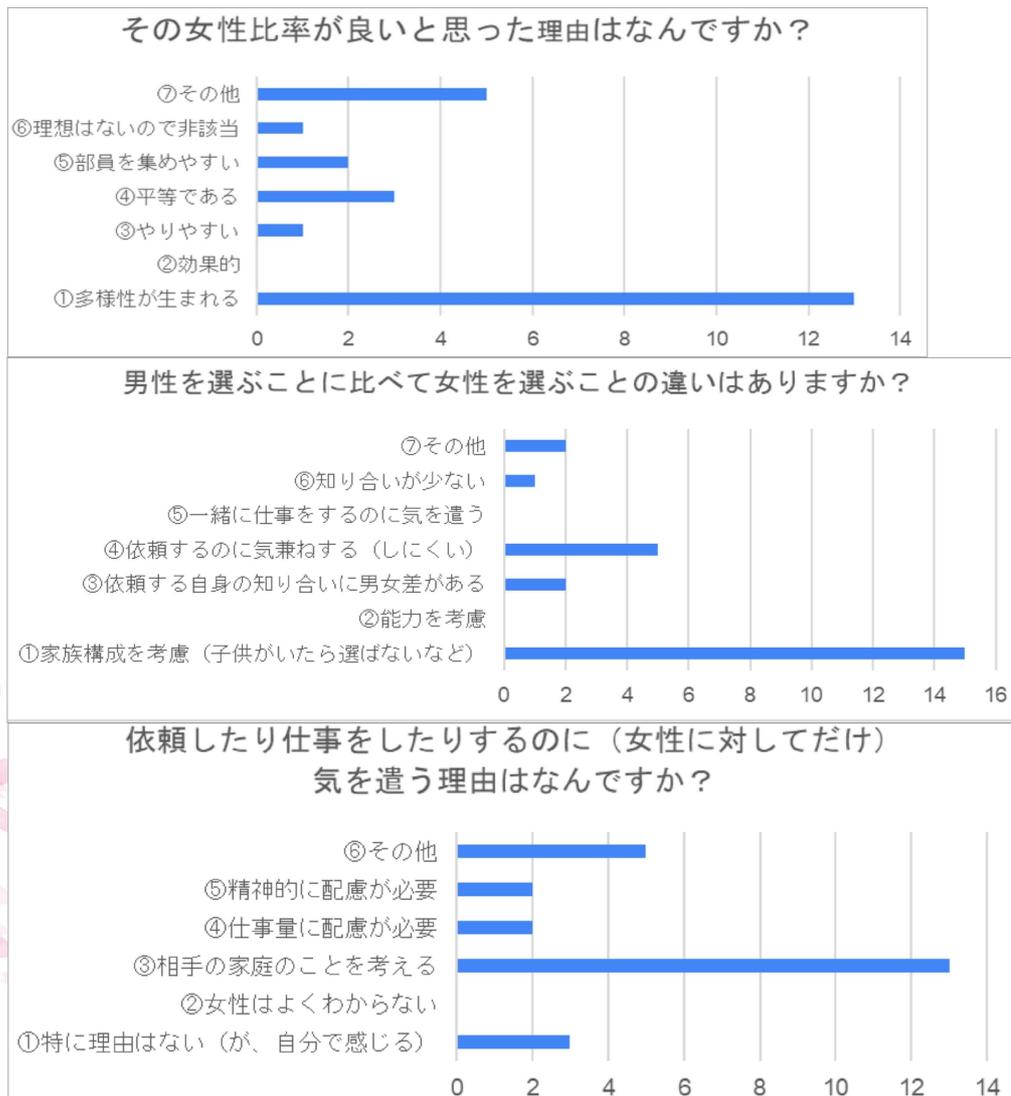
③ 様々な格差を是正する事(男女差など)

元々この男女共同参画推進委員会は女性活躍推進という間瀬会長の大目標から発足しました。ここが大きなウェイトを占めていくことは間違いありません。県士会会員の男女比は男性60%：女性40%です。それに対して理事の女性比率は10%、部長級(支部長、委員長含む。以下同様)は3%、部員(支部運営委員、委員含む。以下同様)は19%、代議員は9%です。部員に一人も女性がない部署は44%あります。現在、部員は部長からの依頼で選ばれていることが多く、部長が部員を集めるのに苦労するという話はよく耳にします。「部長、委員長、支部長、部員」に対してのアンケートで「選ぶ基準に性差がありましたか?」の問いに、あった4%に対し、なかった68%でした(図3)。基準に性差はないものの、前記の比率になっている状況です。部長にとって女性を部員にすることは多様性が生まれてよいと考える反面、女性を選ぶ時は子どもがいるなど家庭の事情を考慮して依頼をするのに躊躇する傾向があるようです(図4)。

選ぶ基準に性差がありましたか? 自身の部の部員の女性比率はどれくらいが理想的ですか?



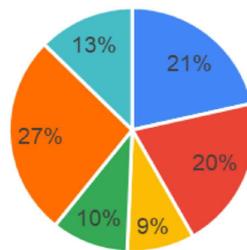
(図3)



(図4)

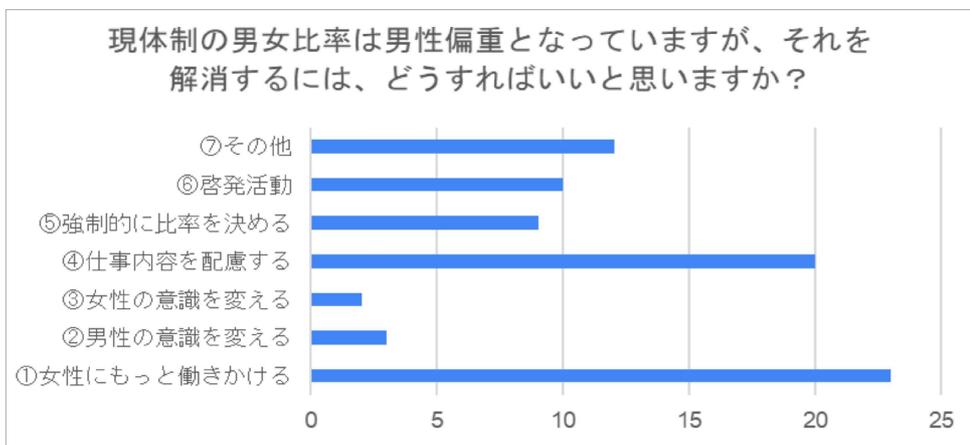
「部員、委員、支部運営委員」に対してのアンケートで「理想的には全体的として（長・部員を含めて）男女比率をどれくらいにすればいいと思いますか？」の問いに、「会員の性別比率と同じにすべき」との回答が最も多かったです（図5）。「現在の男女比率は男性偏重となっていますが、それを解消するにはどうすればいいと思いますか？」の問いに、「女性にもっと働きかける」が最も多く、次に「仕事内容を配慮する」、「啓発活動」と続きました（図6）。女性に参画してもらうには家庭にできるだけ負担のかからないように活動を行う方法を考えて提案したいと思います。

理想的には全体的として（長・部員（委員）を含めて）
男女比率をどのくらいにすればいいと思いますか？



- ① 解消する必要はない（現在20%程度）
- ② 女性比率を30%にはすべき
- ③ 女性比率を40%にはすべき
- ④ 女性比率を50%にすべき
- ⑤ 会員の性別比率と同じにすべき
- ⑥ その他

(図5)



(図6)

④ 今後の男女共同参画推進委員会の活動について

男女の偏重は様々な要因から起こっている現象であり、少しずつでも解決の糸口を見つけていきたいと思っています。現在、メンタルヘルスケアや妊娠中、育児中の理学療法士に対して何かできればと案を練っています。

すべてのことに通じて、まずは啓蒙していくことが大事だと思っています。来年度は会員全体を対象にした研修会を予定しております。皆様奮ってご参加いただきたく、お願い申し上げます。最後になりましたが、アンケートにご協力いただきありがとうございました。今後の活動の参考にいたします。ありがとうございました。

(男女共同参画推進委員会、資料調査部)

会長 行動録

- 12月18日 西村やすし議員特別セミナー出席
- 12月19日 加田参議院議員政経セミナー出席
- 12月20日 臨時財務審議会2022年度出席
- 1月6日 大串さまき参議院議員事務所訪問
谷井いさお兵庫県議会議員事務所訪問
盛山正仁参議院議員事務所訪問
加田裕之議員事務所訪問
関よしひろ参議院議員事務所訪問
西村康稔参議院議員事務所訪問
- 1月12日 兵庫県医師会新年祝賀会出席
- 1月19日 常務理事・三役会出席
- 1月20日 理事会出席
- 2月2日 日本理学療法士協会 政策意見交換会 出席
- 2月4日 伊藤理事、石川連盟会長と会談
山本理事、檀辻理事と会談
2023年 第3回近畿ブロック理学療法士協議会出席
近畿ブロック役員懇親会出席
田中参議員、半田連盟会長と会談
- 2月5日 第62回近畿理学療法学会参加
- 2月9日 木澤理事、山口理事と相談
- 2月10日 県学会運営協力業者と会議
補助金獲得に関する会議出席
- 2月13日 補助金による研修会の開催方法について検討
- 2月16日 常務理事・三役会出席
- 2月17日 理事会出席
- 2月18日 日本理学療法士教員協議会出席
山本かなえ参議院議員、谷井いさお県議会議員と相談
- 2月20日 谷井いさお兵庫県議会議員と会談
- 2月21日 兵庫県理学療法士連盟と相談
- 2月22日 沖山理事と相談
- 2月23日 兵庫県医療職団体協議会研修会
- 2月25日 日本理学療法士連盟主催「理学療法の未来を語る会」参加
- 3月2日 谷井いさお兵庫県議会議員と相談
- 3月7日 「マルチモビディティー患者に対応するためのリハビリ専門の養成」に関する検討
臨時財務審議会出席







医療・福祉の仕事を通じて誰かの力になりたい。





その夢を叶える学校です。





神戸医療福祉専門学校中央校

【介護福祉士科】 【鍼灸科】 【精神保健福祉士科】

〒650-0015 神戸市中央区東照通2丁目6番3号
URL: <https://www.kmwf.ac.jp>

神戸医療福祉専門学校三田校

【理学療法士科】 【作業療法士科】 【看護福祉士科】
【社会福祉士科】 【福祉施設長学科4年制】
【高齢福祉士科】 【整形靴科】 【整形靴科1年制】

〒669-1313 三田市南橋501-85
URL: <https://www.kmwf.ac.jp>

姫路医療専門学校

【作業療法士科】 【看護福祉士科】 【臨床工学技士科】
【看護福祉士科】

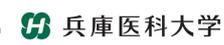
〒670-0927 姫路市野原町27番2号
URL: <https://www.himc.ac.jp>



強い医療人
なりたいか。
なりたいか。

より実践的な
多職種連携「PVI」が学べる
新たな兵庫医科大学へ。
兵庫医科大学は、社会に貢献する
実践型人材を育てる。

2022年4月開設
薬学部 | 看護学部 | リハビリテーション学部
医学部を擁する西日本最大級の医系総合大学に。



兵庫医科大学



西宮すなご医療福祉
センター
矢嶋 咲紀氏



略歴&職歴

- 2016年3月
甲南女子大学
看護リハビリテーション学部
理学療法学科 卒業
- 2016年4月
社会福祉法人 甲山福祉センター
西宮すなご医療福祉センター 入職

趣味

映画鑑賞、パレエ

私は大学生の時の実習で重症心身障害児者施設に行かせていただきました。そこでの実習で日々のケアや関わりの大切さを学びました。重症心身障害児者の方にとって生活の場および社会参加の場であるところで私も働きたいと思い、西宮すなご医療福祉センターに入職しました。今は当センターの入所・外来リハビリと、同法人の訪問看護ステーションつくしでの訪問リハビリを兼務しております。

年齢は子どもから大人まで幅広く、寝たきりで人工呼吸器を装着している方、医療的ケアが必要な方、歩行可能な方など様々な利用者様がいらっしゃいます。お話ができる方は会話で、言葉で伝えることが難しい方は瞬きや指の動き、表情の変化等でコミュニケーションを取りながら日々楽しくリハビリの時間を過ごしています。リハビリでは運動療法や姿勢・呼吸ケア、補装具の作製等を行っています。視線入力装置トビーを使って意志伝達の練習も行っています。

ここ数年はコロナ禍で外出も以前のようにできず、施設やご自宅で過ごされる時間が増え、楽しみや活動が制限された中でみなさん過ごされています。このような状況ですが少しでも楽しく充実した生活になるようにという思いで利用者様やご家族様と関わらせていただいています。どのように介入していけばよいのかまだまだ悩む事も多いですが、利用者様の生活がより良いものになり、活動にも能動的に参加していけるように、これからも誠心誠意頑張っていきたいと思っております。

次は春日野会病院でリハビリテーションに従事されている則政里沙さんにお繋ぎします。

表紙写真

男女共同参画推進委員会は女性活躍推進という目標から昨年度に発足し、今年度から本格的な活動を始めました。活動の下地としてアンケートや研修会を行い、現状の課題と今後の活動について検討しています。アンケート結果についても掲載していますので、ぜひご覧ください。

県士会だより 第199号
発行

一般社団法人兵庫県理学療法士会

発行責任者／間 瀬 教 史
編集者／筒 井 章 悟

ホームページ
<http://hyogo-pt.or.jp/>



一般社団法人 兵庫県理学療法士会

兵庫県理学療法士会事務所 所在地
〒650-0012 兵庫県神戸市中央区北長狭通5丁目5-22 4階
TEL 078-367-7311